

朝のできごと

ぼくのクラスはとても仲がいい、じまんのクラスだ。
だから毎日学校に行くのが楽しかった。



ある日、お父さんがコロナウイルスにかんせんしたことが分かった。家族はみんな、うつっているかもしれないと言われ、ぼくも、けんさをした。お医者さんに

「コロナウイルスにかんせんしています。」

と言われたときはショックだった。ぼくは、しばらく、家から出ることができなくなった。

ずっと家にいて、ぼくは学校のみんなのことを考えた。

「コロナがうつる。」

なんて言われたらどうしよう。前みたいに、いっしょに遊んでくれるだろうか。

しばらくして、お医者さんに、

「明日から、どうどうと学校に行っていよいよ。」

と言われたときは、とてもうれしかった。でも、心配になった。



次の日。久しぶりの登校日。ぼくは、ドキドキしながら、教室に入った。

教室は、いつものようににぎやかだった。けれど、ぼくの姿をみると、いっしゅんしゅんかになった。

「おはよう！」

ゆうきを出して A くんに声をかけた。でも A くんは聞こえなかったのかおしをしていってしまった。B さんは、ぼくのすがたをみながら、友だちとひそひそと何か話しているみたいだ。



「やっぱりこなければよかった・・・。」

そう思っていたとき、C くんが近づいてきて

「げんきだった。心配してたんだ。また、いっしょに遊べるね。」

と声をかけてくれた。ぼくはうれしくて、なみだがあふれた。

「ありがとう。」

本当は「おはよう」と言うはずが、ぼくは思わず、「ありがとう」と言ってしまった。教室の中が少し、温かく感じた。

